

全学共通科目「地球科学実験」の現状と展望

Current Status and Prospects of "Experimental Practice of Earth Science" at Kyoto University

○加藤 護・小木曾 哲・石村豊穂・藤井悠里・桑野太輔・佐藤瑞穂（人間・環境学研究科）
○Mamoru KATO, Tetsu KOGISO, Toyoho ISHIMURA, Yuri FUJII, Daisuke KUWANO, Mizuho SATO (HIS/GSHE)

"Experimental Practice of Earth Science" is the introductory laboratory course in Earth and Planetary Science at Kyoto University. This course is offered by the IHS/GSHE in collaboration with other departments at Kyoto, including DPRI. With the university-wide changes in the introductory course curriculum, as well as the addition of new members to the IHS/GSHE Earth Sciences group in the last 10 years, we have made several changes to this traditional course. We present the status quo and the outlook for the course.

1. はじめに

全学共通科目「地球科学実験」は地球惑星科学系の実験科目である。人間・環境学研究科（総合人間学部）の教員を中心に、理学研究科、防災研究所、生存圏研究所などの教員が担当している。履修者の多くは理学部1回生である。受講者を班に分けて少人数授業を実現していること、実験内容を各担当教員の研究分野に近いものにフレキシブルに設定することがこの科目の特徴である。

全学共通科目の全体構想の変更や人間・環境学研究科への新教員の加入に伴い「地球科学実験」の実施内容も変化している。本発表ではこの科目をめぐる最近の話題を整理したうえで、今後の展望について議論したい。

2. 提供内容に関して

2000年以降の主な出来事について整理する。

科目の整理 以前提供していた、半期で1つの実験テーマに取り組む「地球科学実験 B」及びその後継科目「発展型地球科学課題演習」は履修者の減少などにより廃止された。現在は午後2コマ、2週で1分野（半期で6分野）を学ぶ「地球科学実験」のみを提供している。

実験テーマの変遷 学外非常勤教員の定年などにより一部のテーマが中断している。また5限に開講される科目が全学的に増えているために実験時間の延長が不可能となっている。この影響は地

質観察など野外に出るテーマにでている。

履修者数の減少 地球科学を含めた自然科学系実験科目の履修者の減少が続いている。これは履修コマ数の制限（キャップ制）の影響と考えられる。実験科目は1コマあたりの単位数が講義科目の半分であり、魅力的ではないと考える学生が増えていると分析している。

コロナウイルス感染症対応 2000年前期はコロナウイルス感染症のために対面授業が不可となり特別なカリキュラムを組んで対応した。対面での受講を希望する履修希望者には次期以降に履修することを推奨した。2000年後期は少人数授業として最も早くから対面に戻した科目のひとつとなった。この期の期末アンケートでは対面授業の良さを挙げた履修者が多かったことが特徴である。

3. 今後の展望について

大学入学までに地球惑星科学に触れる機会は多くない。少人数対面授業である「地球科学実験」は地球惑星科学に触れる科目であるとともに京都大学における地球惑星科学研究者を紹介する科目でもあると位置づけている。できるだけ多くの履修者に、できるだけ広い範囲の地球惑星科学を紹介するために今後とも防災研究所を含む学内各部署や学外非常勤教員の協力をいただきつつ運営を進めていきたいと考えている。